

令和4年度 泉佐野市の財政状況

問合せ 行財政管理課

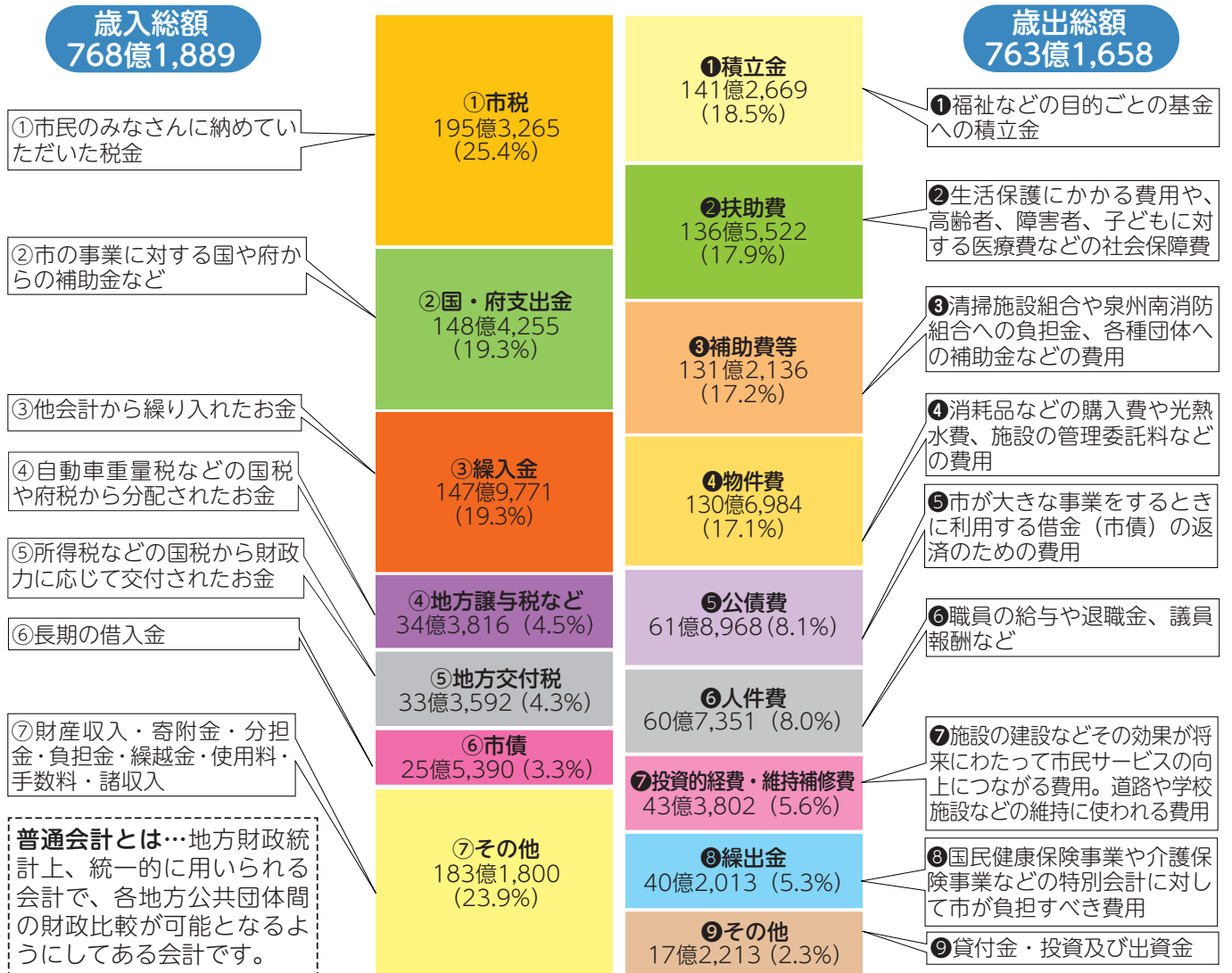


決算の特徴としては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの緩やかな持ち直しが続く一方で、市税の大幅な増収が見込めないなか、令和元年12月に策定した中期財政運営方針に基づく事務事業の継続した見直しなどによる歳出削減のほか、国のエネルギー・物価高騰対策に関連する財政支援の積極的な活用及び各目的基金の活用、遊休土地の積極的な売却、ふるさと応援寄附の推進などの歳入確保に努めたことで、前年度に引き続き4億900万円の黒字となりました。

歳入総額	歳出総額	翌年度繰越財源	実質収支額
768億1,889万円	763億1,658万円	9,357万円	= 4億 874万円

令和4年度 普通会計の決算

(単位:万円)



市民1人あたりでは…

歳入 778,409円	固定資産税 103,621円	歳出 773,319円	●総務費 275,319円	●商工費 30,705円
●市税 197,925円	●市民税 64,458円	●民生費 214,760円	●消防費 14,069円	●議会費 2,773円
●国庫支出金、府支出金 150,400円	●都市計画税 15,196円	●公債費 62,726円	●衛生費 62,201円	●その他(労働費など) 4,517円
●市債 25,879円	●市たばこ税 8,910円	●教育費 56,732円	●土木費 49,517円	
●その他(繰入金など) 404,205円	●軽自動車税 2,929円			
	●入湯税 109円			
	●法定外普通税 2,702円			

教育・子育て支援

- 長坂小学校、上之郷小学校、中央小学校、日根野中学校の図書室整備
- 長南小、中学校のプール整備
- 小中学校給食無償化の継続実施
- 小中学校就学奨励認定基準の拡大



令和4年度に実施した主要事業

安全・安心なまちづくり

- 南部市民交流センター福祉分館の整備
- 鶴原団地住宅（8～15棟）建替



まちの活性化・賑わいの創出

- 泉佐野土丸線の整備
- 「さのぼ」ポイント還元キャンペーンの実施
- 18歳以下子どもたちへギフトカードの配付（大阪府と共同実施）
- 市内事業者、農業者、漁業従事者等への支援金給付
- 「eスポーツ」MICEコンテンツの実証
- 2025大阪、関西万博の機運醸成、PR事業の実施

各会計決算（歳出）

（単位：万円）

会計名	令和4年度	令和3年度	比較
一般会計	757億3,571	694億7,001	62億6,570
国民健康保険事業特別会計	107億5,343	107億 877	4,466
公共用地先取得事業特別会計	19億9,760	9億7,947	10億1,813
介護保険事業特別会計	96億5,746	93億1,870	3億3,876
後期高齢者医療事業特別会計	14億1,488	13億1,879	9,609
病院事業債管理特別会計	18億9,242	18億7,195	2,047
りんくう公園事業特別会計	4億9,615	2億 131	2億9,484
水道事業会計（*）	44億6,192	41億5,090	3億1,102
下水道事業会計（*）	82億 569	79億3,618	2億6,951
合計	1,146億1,526	1,059億5,608	86億5,918

（*）…水道事業会計、下水道事業会計の歳出額は、収益的支出と資本的支出を合算したものです。



令和4年度末残高

- 市債（長期借入金）…586億円
市民1人あたり 593,991円
- 積立金…163億円
市民1人あたり 164,757円

健全化判断比率の状況

実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字により数値はバー表記、実質公債費比率は、8.5%と前年度から1.4ポイントの改善、将来負担比率は27.9%と前年度より14.9ポイント改善し、いずれも早期健全化の基準未満となっています。

(単位：%)

健全化判断比率	令和3年度実績値	令和4年度実績値	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	12.15
連結実質赤字比率	—	—	17.15
実質公債費比率	9.9	8.5	25.0
将来負担比率	42.8	27.9	350.0

- ①実質赤字比率…標準財政規模(*)に対する、一般会計等に生じている赤字の大きさの割合
- ②連結実質赤字比率…標準財政規模に対する、水道や下水道など公営企業を含む全会計に生じている赤字の大きさの割合
- ③実質公債費比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金返済額の大きさの割合
- ④将来負担比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金など現在抱えている負債の大きさの割合

(*) 標準財政規模…市の経常的な一般財源の規模を示すもので、標準的な税収入額に普通交付税などを加算した額（令和4年度決算：約241億円）

今後の取組項目

【支出の抑制、効率的な行政運営に関する事項】

- 事務事業の継続した見直し
- 広域連携の推進
- 民間委託の拡充
- 給与水準の適正化などによる総人件費の抑制

【収入の確保に関する事項】

- 滞納処分の強化および徴収率の向上
- 企業誘致などによる税収増加
- ふるさと応援寄附金制度、ネーミングライツなどの更なる税外収入の確保

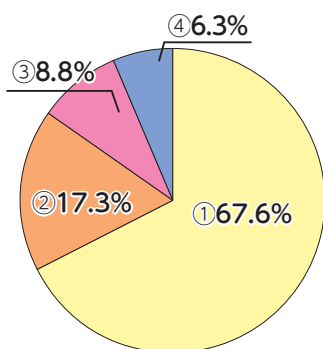
中期財政運営方針期間終了時の目標

- 実質公債費比率は10.0%以下
- 地方債残高は標準財政規模の2.5倍以下
- 将来負担比率は130%以下

国民健康保険事業特別会計

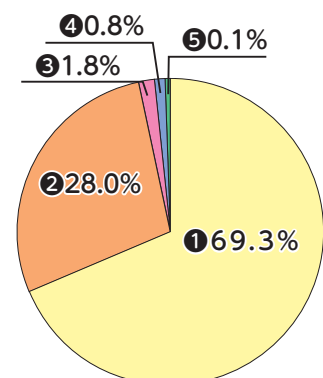
問合せ先 国保年金課

国民健康保険事業特別会計は、歳入113億1,245万円に対して、歳出107億5,343万円で5億5,902万円の黒字となりました。なお、黒字決算により、一般会計からの財政安定化支援事業（予算額1億7,074万円）の繰入を行わなかったため、単年度では1億2,734万円の赤字となっています。



歳入 113億1,245万円

科目	金額 (万円)
①府支出金	76億4,983
②保険料	19億6,038
③繰入金	9億9,809
④その他	7億 415



歳出 107億5,343万円

科目	金額 (万円)
①保険給付費	74億4,637
②国保健康保険事業費納付金	30億 869
③総務費	1億9,689
④保健事業費	8,803
⑤その他	1,345

【府内平均を大幅に上回る医療費】

令和3年度の本市における全被保険者1人あたりの医療費は42万5,893円と府内43市町村中9番目に多く、府内平均の40万7,162円を大きく上回っています。これは、他の市町村に比べ、レセプト1件あたりの診療日数および診療費が多くなっていることが影響しています。

以前から、ジェネリック医薬品の利用促進や柔道整復の適正受診の啓発など医療費適正化の取組を進めていますが、1人あたり医療費は増加し続けており、府内でも引き続き高いレベルにあります。

【病気は未然に防ぎましょう】

本市では市民の健康づくりを推進するため、生活習慣病予防に着目した特定健診・特定保健指導の推進を図っています。これは内臓脂肪型肥満や糖尿病、高血圧、高脂血症などの危険因子が重なるほど、心疾患や脳血管疾患を発症する危険が増大することから、生活習慣病予防に取り組むこととなったものです。

その他、被保険者のみなさんには、人間ドック・脳ドックや泉佐野市役所健診センターで実施している各種検診を利用して、病気の予防、早期発見、早期治療に努めていただき、さらなる健康寿命の延伸や医療費の適正化にご協力をお願いします。

上下水道局会計決算

水道事業会計は、事業収益26億750万円（前年度比1.7%減）に対し、事業費用25億2,305万円（前年度比0.6%増）で、8,445万円の純利益が生じました。

【令和4年度の主な事業】

土丸栄線に配水管を布設しました。また、上町末広線及び泉佐野熊取線等の老朽管の更新工事を行い、安全で良質な水道水の安定供給を図るとともに、ライフライン機能の強化に努めました。

令和4年度経営状況 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	22億8,744	営業	24億2,780
営業外	3億1,333	営業外	9,397
特別利益	673	特別損失	128
—	—	純利益	8,445
合計	26億 750	合計	26億 750

水をたいせつに

- 導・送・配水管総延長 473.38km（令和5年3月31日現在）
- 総配水量 1,263.6万³（年間）
- 企業団水 1,119.2万³（年間）+自己水144.4万³（年間）
- 1日平均配水量 3万4,619³
- 1人あたり1日平均配水量 351ℓ
- 給水装置工事や漏水修理の申込は市指定工事業者へ
(<https://www.water.izumisano.osaka.jp/>)

水道事業会計

問合せ先 経営総務課（水道事業）
☎467-2800
Fax467-1801

上下水道局（水道事業）からのお願い
市では、昭和44年4月1日から、鉛管の使用を禁止してきましたが、それ以前に給水装置を設置した建物では、鉛管を使用していることがあります。
この場合、長時間水道を使用しないと、水道管から微量の鉛が溶け出したり、消毒用塩素濃度の低下や赤水が発生する場合があります。
朝一番や長時間留守にした場合は、バケツ1杯程度の水道水を飲み水以外に使用するようにお願いします。

下水道事業会計は、経営基盤の強化や経営の計画性・透明性の向上を図ることを目的に、令和2年4月に地方公営企業法の全部を適用し、「公営企業会計」に移行しました。

下水道事業会計は、事業収益40億1,637万円に対し、事業費用36億2,255万円で、3億9,382万円の純利益が生じました。

【令和4年度の主な事業】

管渠整備事業として、市内13工区で下水道管渠布設工事を実施し、汚水整備を推進するとともに、雨水ポンプ場の機能保全を図るため、中央ポンプ場において耐震化にも考慮した年次的な長寿命化対策工事を実施しました。

令和4年度経営状況 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	25億1,096	営業	32億7,211
営業外	14億7,464	営業外	3億2,965
特別利益	3,077	特別損失	2,079
—	—	純利益	3億9,382
合計	40億1,637	合計	40億1,637

業務量

- 下水道普及率 44.3%（令和5年3月31日現在）
- 水洗化率 89.5%（令和5年3月31日現在）
- 有収水量 7,410,042³
- 下水道管渠布設総延長 285.3km（令和5年3月31日現在）

下水道事業会計

問合せ先 経営総務課（下水道事業）
☎450-2222
Fax450-2223

上下水道局（下水道事業）からのお願い
快適で衛生的な生活環境を守るため、汚水の整備を進め、普及率の向上に努めています。
下水道は、私たちの暮らしから排出される汚水をきれいに処理して川や海に戻すことで美しい自然を守っています。
しかし、その効果を発揮するためには、私たち一人ひとりの理解や協力が欠かせません。下水道が整備され、使用できるようになった区域にお住いの人は、下水道への早期接続をお願いします。